



40th

筑波大学附属病院
開院40周年記念

University of Tsukuba Hospital
40th Anniversary

筑波大学附属病院 開院40周年のご挨拶

このたび、筑波大学附属病院は本年10月をもちまして、開院40周年の節目を迎えました。これもひとえに、開院当時から今日に至るまで筑波大学附属病院の発展のためにご尽力いただいた教職員の皆様、そしてそれを支えてくださった地域の皆様や関係者の皆様のご支援の賜物であります。改めてこの場をお借りし、心より感謝申し上げます。

さて、筑波大学附属病院は開院当時からナンバー制の医局講座制を廃止して臓器別診療グループ制を導入し、病棟については診療科制を廃止し症度別単位として効率的な運用を目指してきました。さらには、先進的な医師教育として当時の国立大学病院では採用されていなかったレジデント制度を取り入れて、世界で活躍できる医師の育成に取り組んで参りました。

平成13年からは日本の大学病院としては初の陽子線治療を開始し、当院における陽子線治療の臨床・研究の実績は、今日の陽子線・重粒子線治療の発展及び最先端のがん治療にも大きく貢献しています。また、平成16年の国立大学の法人化により国立大学病院の人員配置や設備投資についても自己財源で整備できるようになり、手術をはじめとするさまざまな治療が飛躍的に発展増加しまし



た。さらに、平成24年には国立大学附属病院として、初のPFI事業がスタートするとともに、入院病棟としてけやき棟が建設され、ICUなどの増床や高度な手術室の整備など、さらなる高度医療が提供できるようになりました。

筑波大学附属病院は、今後も10年単位で未来のあるべき医療を見据えて、

◎地域医療機関への医師派遣、コメディカルを活用した茨城県の医療環境の充実

◎新しい医療技術創出のための基盤作り・橋渡し・臨床研究を推進し、新たな先進医療を目指す

◎予防・未病等医療への取り組み

◎国際医療への貢献

◎高齢化等による認知症治療への取り組み

◎がん、生活習慣病、難病治療などへの更なる取り組み

◎BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)による、難治性がん治療の確立

などの取り組みを行い、更なる医療の発展に貢献して参ります。今後とも皆様のご理解とご支援を賜りたく、筑波大学附属病院の発展のため、よろしくお願い申し上げます。

筑波大学附属病院長 松村 明





理念 PRINCIPLE

良質な医療を提供するとともに、優れた人材を育成し、医療の発展に貢献します。

基本方針 POLICY

- 安全で質の高い医療を提供します。
- 医療の使命と責任を自覚し、豊かな人間性を有する優れた医療人を育成します。
- すべての職種が参画するチーム医療を推進し、地域社会との連携を図ります。
- 健康、医療にかかわる知識の普及に努めます。
- 疾病の研究と先進的な医療技術の開発を通して、国際社会に貢献します。

特長 CHARACTERISTICS

高度に専門化された医師、看護師、技師の適切かつ統合的チーム診療を能率よく受けられるような体制の確立・維持及び優秀な臨床医の養成を目指しています。

また、特定機能病院として高度医療の提供、高度医療に関する開発・評価及び研修を行うとともに、他の医療機関との間での患者の紹介等を通じて緊密に連携を図っています。

ケヤキは、つくば市の木として指定されており、新棟の名前「けやき棟」の由来にもなっている。その葉として天空に広がる姿は人々の心を捉え、希望を象徴するような印象を与えてくれる。

本院はISO9001認証を取得・継続しています

ISO9001は顧客および組織の構成員・関係者の期待により良く応えるための組織運営手順の国際標準で、平成16年以後 本院はISO9001認証を継続しています。右記の認証マークは、本院の組織運営手順がISO9001:2008規準に適合していることをBSIグループジャパン（認定審査登録機関）が認証したことを示します。

ISO9001認証継続を通じ、本院は患者さま、院内職員および院外関係者の皆さんの期待により良く応えられるよう病院運営を改善し続けます。



本院は病院機能評価の認定・更新をしています

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況の評価します。本院は、審査の結果、一定の水準を満たしている「認定病院」です。以下の認定を公益財団法人日本医療機能評価機構より受けています。

病院機能評価3rdG:Ver1.0（平成26年1月6日更新）

- 主たる機能 一般病院2（500床以上）
- 副機能 精神科病院



沿革 HISTORY

1976

- 昭和 50年 4月 1日 ● 附属病院創設準備室設置
- 51年 1月31日 ● 病棟 (B棟) 竣工
- 3月27日 ● 外来診療棟 (A棟)、中央診療棟 (C棟) 竣工
- 5月10日 ● 以下の部等を設置
- 事務局に病院部 (現 病院総務部)
- 附属病院に15診療科、検査部、手術部、放射線部、材料部 (現 物流センター)、薬剤部、看護部

1980

- 10月 1日 ● **附属病院開院**
- 52年 4月18日 ● 第3内科、神経内科、脳神経外科設置
- 救急部 (現 救急・集中治療部) 及び病歴部設置
- 6月15日 ● 特殊診療棟 (D棟) 竣工
- 56年 3月20日 ● 病棟 (E棟) 竣工
- 4月 1日 ● 分娩部 (現 総合周産期母子医療センター) 設置
- 57年 4月 1日 ● 理学療法部設置
- 63年 3月30日 ● MR棟 (F棟) 竣工

1990

- 平成 2年 6月 8日 ● 卒後臨床研修部 (現 総合臨床教育センター) 設置
- 集中治療部 (現 救急・集中治療部) 設置
- 4年 4月10日 ● 輸血部設置
- 12月15日 ● 外来診療棟 (A棟) 増築竣工
- 6年 3月22日 ● MR棟 (F棟) 増築竣工
- 5月20日 ● 光学医療診療部設置
- 7年 4月 1日 ● 病歴部の改組により医療情報部 (現 医療情報経営戦略部) 設置
- 9年 4月 1日 ● 病理部設置
- 11年 2月15日 ● (公財) 日本医療機能評価機構より認定

2000

- 12年 4月 1日 ● 理学療法部の改組によりリハビリテーション部設置
- 13年 4月 1日 ● 血液浄化療法部設置
- 9月 1日 ● 陽子線医学利用研究センター新施設完成
- 14年 4月 1日 ● 臨床医療管理部設置
- 15年 3月31日 ● MR棟 (F棟) 増築竣工
- 4月 1日 ● 医療福祉支援センター (現 医療連携患者相談センター) 設置
- 16年 2月15日 ● (公財) 日本医療機能評価機構の認定更新
- 3月 9日 ● ISO9001:2000認証取得
- 4月 1日 ● **国立大学法人化に伴い国立大学法人筑波大学附属病院に変更**
- 中央診療施設、特殊診療施設が診療施設として統合
- 病態栄養部新設
- 6月21日 ● 経営戦略室設置
- 17年 6月29日 ● 茨城県より総合周産期母子医療センター指定
- 7月 1日 ● 緩和ケアセンター設置
- 18年 3月 2日 ● 本学に筑波大学附属病院再開発推進室設置
- 9月25日 ● (公財) 日本医療機能評価機構の認定更新
- 19年 2月 1日 ● つくばヒト組織診断センター設置
- 3月 9日 ● ISO9001認証更新
- 7月 1日 ● 臨床腫瘍センター (現 総合がん診療センター) 設置

2010

- 20年 2月 8日 ● 地域がん診療連携拠点病院指定
- 4月 1日 ● 外来化学療法室設置
- 7月 1日 ● 医療機器管理センター設置
- 9月24日 ● NPO法人卒後臨床研修評価機構より認定
- 21年 4月 1日 ● 水戸地域医療教育センター設置
- 22年 2月12日 ● ISO9001:2008認証更新
- 4月 1日 ● ISO・医療業務支援部設置
- 10月 1日 ● 茨城県地域臨床教育センター設置
- 12月27日 ● 放射線治療品質管理室設置
- 23年 4月 1日 ● ひたちなか社会連携教育研究センター、臨床研究推進・支援センター設置
- 24年 4月 1日 ● 感染管理部、日立社会連携教育研究センター、
- 土浦市地域臨床教育ステーション (現 土浦市地域臨床教育センター)、
- 北茨城地域医療教育ステーション、国際戦略総合特区推進室設置
- 6月18日 ● 国際連携推進室設置 (現 国際医療センター)
- 7月 1日 ● 茨城県小児地域医療教育ステーション設置
- 附属病院の英語表記名を「University of Tsukuba Hospital」に変更
- 9月10日 ● いばらき治験ネットワーク設置
- 9月30日 ● **新棟 (けやき棟) 竣工**
- 12月 1日 ● ボランティア室設置
- 12月26日 ● **新棟 (けやき棟) 供用開始**
- 25年 1月 1日 ● 小児総合医療センター、小児集中治療センター設置
- 茨城県より小児救命救急センター指定
- 2月 1日 ● 病床管理センター設置
- 2月 8日 ● ISO9001:2008の認証更新
- 4月 1日 ● 認知症疾患医療センター設置
- 茨城県より認知症疾患医療センター (基幹型) 指定
- 陽子線医学利用研究センターに先端粒子線研究戦略室、中性子医学研究開発室設置
- 9月 1日 ● つくば市バースセンター設置
- 10月 1日 ● 臨床心理部設置
- 11月 1日 ● つくばヒト組織バイオバンクセンター設置
- 茨城県災害拠点病院として指定
- (公財) 日本医療機能評価機構の認定更新
- 26年 1月 1日 ● 未来医工融合研究センター設置
- 4月 1日 ● かさま地域医療教育ステーション設置
- 7月16日 ● 取手地域臨床教育ステーション設置
- 10月 1日 ● 陽子線治療センター設置
- 27年 1月 1日 ● リハビリテーション科設置
- 4月 1日 ● 腫瘍内科、総合災害・救急マネジメント室設置
- 6月 1日 ● つくば臨床医学研究開発機構が部局附属教育研究機関として設置
- 7月 1日 ● 神栖地域医療教育センター設置
- 8月 1日 ● 遺伝診療部設置
- 9月 1日 ● 患者図書室「桐の葉文庫」開設
- 10月 1日 ● つくばスポーツ医学・健康科学センターを部局附属教育研究機関として設置
- 28年 4月 1日 ● 茨城県災害・地域精神医学研究センター設置
- 10月 1日 ● つくば予防医学研究センター設置

2016

つくばヒト組織バイオバンクセンター

つくばヒト組織バイオバンクセンターは研究用ヒト試料の分譲を行う研究支援部門で平成25年11月に設置されました。手術や検査で採取された組織や血液などの試料を患者さんの同意のもと保存・管理しています。これらの試料はさまざまな研究機関に分譲され、研究利用されます。人に有効な薬や治療法の開発にはヒトに由来した試料を使った研究が不可欠です。研究に有用で豊富な臨床情報を付帯したヒト試料の提供を通じて、医学、薬学研究の推進・発展に寄与してまいります。



つくば市バースセンター

つくば市バースセンターは、周産期医療を担う医師及び助産師を養成・確保し、中・長期的な周産期医療体制の充実・向上を図ることで、将来にわたって市民の安全で安心な出産の場を安定的に提供することを目的として設置されました。当該センターは、つくば市との間で平成25年3月に締結された「つくば市寄附講座総合周産期医学」の設置に係る協定に伴い同年9月に開設されました。地域の妊産婦の皆さんが主体的に妊娠・出産、そして育児に臨めるように助産師が中心となって妊娠期・産褥期をサポートする院内助産システムを導入、さらに出産には必ず医師が立ち合うことでより安全で安心な出産を提供しています。



つくば臨床医学研究開発機構 [T-CReDO]



学内および筑波研究学園都市を中心とする産官学の研究機関の研究成果（シーズ）の臨床応用（実用化）に向けた支援を強化するため、学内の既存の組織を統合再編して機能強化を図るとともに、研究マネジメントや信頼性保証等の部門を新たに設けた「つくば臨床医学研究開発機構（T-CReDO）」を平成27年6月1日に設置しました。本機構は、①医療シーズの開発戦略相談、シーズ育成と臨床開発、②市販後の臨床上有用な知見を得るために行う臨床研究の実施、③医療技術の開発を目指す若手研究者の育成、臨床研究に関わる研究者の生涯教育を推進します。これにより、革新的医薬品・医療機器の創出を加速し、国民の健康福祉に貢献するとともに、持続成長可能で国際的な臨床開発拠点の形成を目指しています。



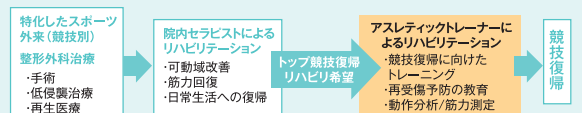
つくばスポーツ医学・健康科学センター

本学体育系は、体育・スポーツ・健康を中心とした組織であり、国内屈指の指導者・選手が多数在籍するとともに、教育訓練されたトレーナーを国内外に多数輩出しています。また、医学医療系では、国際級の各種ワールドカップ等の専属スポーツドクターが活躍し、競技指導者へのスポーツ医学教育を含め、日本でもトップクラスの診療・リハビリ体制を確立しています。本学の体育系と医学系の専門家集団が連携を図りつつ、総合的なスポーツ医学をプロデュースするのが「つくばスポーツ医学・健康科学センター」です。本センターは、平成27年10月に設置されました。診療・研究部門、アスリートサポート部門、健康増進部門から構成され、トップアスリートから生活習慣予防まで幅広いニーズに対応しています。

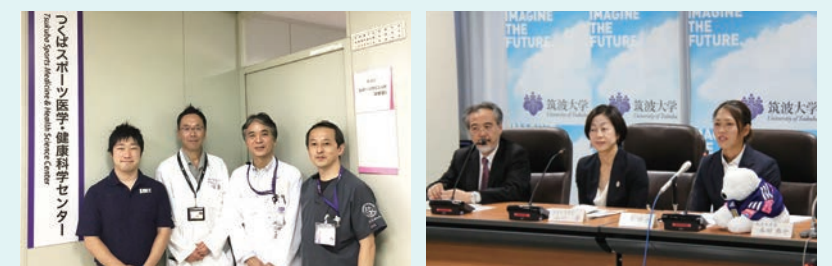
SPECを利用した治療から競技復帰までの一貫貫型リハビリテーションシステムの確立

筑波大学附属病院
University of Tsukuba Hospital

SPEC
Sport Performance and Clinic Lab.

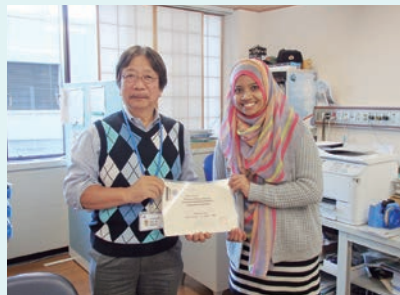


附属病院整形外科医師による常時サポート体制



国際医療センター

本病院の国際化推進を目的に、平成24年10月から国際連携推進室として活動を行ってまいりました。その機能をより強化するため、今年度より「国際医療センター」と名称を改め活動をスタートさせました。当センターでは、海外からの研修受入・視察対応、病院職員の海外派遣支援、海外からの患者受入推進・サポート、国際的医療機関認証機構であるJCI(Joint Commission International)の認証支援等の活動を通じて病院の国際化に努めています。



茨城県災害・地域精神医学研究センター

茨城県災害・地域精神医学研究センターは、平成28年4月に茨城県病院局の寄附により開設いたしました。本センターは全国に先駆けて、災害時における被災地への精神医療支援体制(DPAT)の構築及びアウトリーチ活動を通じた地域精神科医療の充実に関する研究の推進を目的に活動を行っています。

去る平成27年9月に発生した、関東・東北豪雨による常総水害や今年4月に発生した熊本地震に際しては、被災地でこころのケアを必要とする方々へのサポートを行いました。

災害支援の経験を生かして、全国の医療機関とのネットワーク構築、精神医療支援体制を強化することで、大規模災害時に迅速かつ確かな災害医療が提供できるよう、この分野での積極的な活動を行っています。



熊本DPAT第1班
熊本地震 拠点本部にて活動



平成27年9月関東・東北豪雨
常総市役所で合同本部を設立

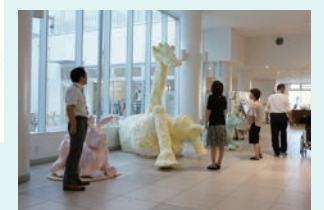


平成28年9月 DPAT先遣隊研修

病院アートの取り組み

当院では平成14年より、筑波大学芸術系の教職員や学生と協力しながら、アート・デザインによる療養環境改善の取り組みを行っています。学生チーム「アスパラガス」が、入院病棟を中心にワークショップを行うほか、平成26年には「ガーデンプロジェクト」チームが附属病院前にガーデンをオープンするなどの様々なアート活動を行ってきました。また、けやき棟をメインに教職員や学生の作品を展示し、季節の変化を配慮しながら定期的に展示替えを行っており、洋画・書・写真・映像作品と幅広い分野の作品展示は、病院利用者の皆さんからも好評をいただいています。今回の開院40周年記念式典ロゴは附属病院のアート活動で活躍されている「ゴブリン博士」こと小中大地さんにデザインいただきました。

※ゴブリン…いたずら好きの妖精



つくば予防医学研究センター

平成28年10月に、予防医学による健康長寿社会の実現のため、「つくば予防医学研究センター」が設置されました。当センターは、人間ドックをはじめとして予防医学研究・教育の拠点となるものです。PET-CTなど最先端の医療機器と各専門分野の高度な知識と技能を有するスタッフを配置し、健康増進と病気の早期発見を可能にします。万が一がんが発見された場合でも、院内各種部門との密接な連携によりスムーズな治療が行えます。また、つくばスポーツ医学・健康科学センターとの連携により、科学的な視点を取り入れた生活習慣の改善、栄養指導により未病・予防の効率的なプログラムも提供いたします。





おわりに

筑波大学は明治5年に、日本で最初に設立された師範学校を創基とする東京師範学校（のち東京教育大学）を前身とし、昌平坂学問所（昌平黉）を一部引き継ぐ形で設立されました。その経緯から、日本で最も古い大学群とされています。昭和46年11月に作成された「筑波新大学開設全体計画第一次案」に「医学」が加えられ、筑波大学医学部門の創設が始動しました。医学においても教育の筑波と呼ばれ、本院も医学研究のほかに卒前・卒後を含めた医学教育を行う機関として、さらに茨城県からは医師不足、地域医療向上の期待が寄せられました。昭和48年10月に新構想大学として本学が開学し、本院は、開学翌年の昭和49年3月17日に着工し、昭和51年10月1日に15診療科320床で開院しました。これまで本学卒業生のみならず、全国の医学部、医療従事者養成機関等の卒業生を研修として受入れるとともに、優れた医学、看護学、医療科学の研究者・教育者、医療人を数多く輩出してきました。現在、茨城県内に勤務する医師の3人に1人が本院の関係者で、その数は実に1800人以上に及びます。

多くの仲間とともに、着実に歩んでこられたのも、開院から今日の発展へとつなげてくださった諸先輩方、関係者、全職員の並々ならぬ努力と苦労があったからこそと、関係者の皆様に深甚の敬意を表するものであります。このパンフレットをご覧になっている皆様にとって、現在の筑波大学附属病院はどのように見えるでしょうか？皆様にとって親近感と同時に信頼のおける筑波大学附属病院であり続けるために、これまでの40年を振り返り、これからの更なる発展を期したいと思います。今後も引き続き、あたたかいご支援を賜りますようお願いいたします。

筑波大学附属病院副病院長 山縣邦弘